

『トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会』

第6回 開催報告



実施の概要

開催日時：平成21年8月10日(水) 18:30~20:30

場所：トキ交流会館

参加者：総勢57名(住民36名、学識者2名、関係機関7名、報道機関1名、事務局等11名)

座談会進行役：桑子敏雄(東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授)

座談会の内容

座談会では、下記の内容についてみんなで話し合いました。

天王川自然再生事業の理念について
天王川水辺づくり座談会のルール
これまでの検討経緯の整理
第5回座談会で承認されたこと
河口部の浚渫についての報告
ビオトープの利活用について



天王川河口部自然再生 形状(案)



全会一致で承認したこと

右岸側導流堤の撤去及び内湖堤防の整備については、設計を進めるとのこと。
ビオトープの整備計画については、今後も議論を継続していくとのこと。
今後は、中流部における整備計画について議論を実施していくこと。

これから、天王川の水辺づくりを有意義に進めていくため、座談会のルールを確認しました。

今後の座談会を進めるにあたって、話し合いのルールを守り、建設的な座談会としていきましょう。

ルール1：座談会の議論と合意にもとづいて県は事業を進めます。

ルール2：座談会は誰もが自由に参加し、発言できる話し合いの場です。

ルール3：座談会では、地域の将来をみんなで建設的に話し合います。

ルール4：地域の幅広い意見を聴き、その意見を座談会の議論に反映させます。

ルール5：専門家からアドバイスを受け、座談会の議論に反映させます。

問い合わせ先

新潟県佐渡地域振興局地域整備部 担当 佐々木(計画調整課)

TEL: 0259-74-4040

FAX: 0259-74-2048

Email: sasaki.tadashi2@pref.niigata.lg.jp

みなさんの意見

座談会では、活発な話し合いが展開されました。主な話し合いは次の通りです。



河口部の浚渫についての報告

事務局の説明 平成21年6月下旬～7月上旬に河口部の浚渫を行いました。浚渫土は、現在潟端地区に仮置きしており、将来的には道路事業等の盛土材として活用する予定です。

土砂浚渫前（6月上旬）



浚渫中（6月22日～7月9日）



土砂浚渫後（7月下旬）



河口ビオトープの整備と利活用について

- ・事務局の説明 河口部のビオトープは、霞堤で連結し、多様な環境を創出し、環境学習、自然体験などの場として活用していくことを考えています。
- ・海外の事例紹介 日本自然環境専門学校 五十嵐校長には、ビオトープの利活用の事例として、イギリスやサンフランシスコでの事例を紹介して頂きました。



（イギリスでの事例写真）

- ・加茂湖のカキ養殖に、悪い影響を及ぼさない整備を考えて欲しい。（地域住民）
- ・これまで地元と協力して遊歩道やヨシ原の整備を行ってきたが、定期的な維持管理は困難な状況です。多様な環境を創出し、地域の憩いの場、環境学習の場となるように整備していただきたい。（佐渡市）
- ・霞堤でビオトープを連結し、塩水を流入させる目的を教えてください。（地域住民）
- ・現在は海と陸が分断されている状態です。日本で始めての中小河川の自然再生で、次世代の子供たちにシラウオなどの汽水環境を見せてあげたい。（島谷先生）

その他、天王川中流域の整備について、ご意見をいただきました。

天王川中流域の整備について、以下のようなご意見を頂きました。

- ・ウスクラ沢付近の田んぼの環境を守っていききたい（トキの餌場となっている）。（地域住民）
- ・中流部工事の土砂が加茂湖に流れ込まないように配慮していただきたい。（地域住民）



- ・今後の座談会では、中流部の整備についての話し合いを進めていきたいと考えています。
- ・また、現地見学会などの開催も検討しています。